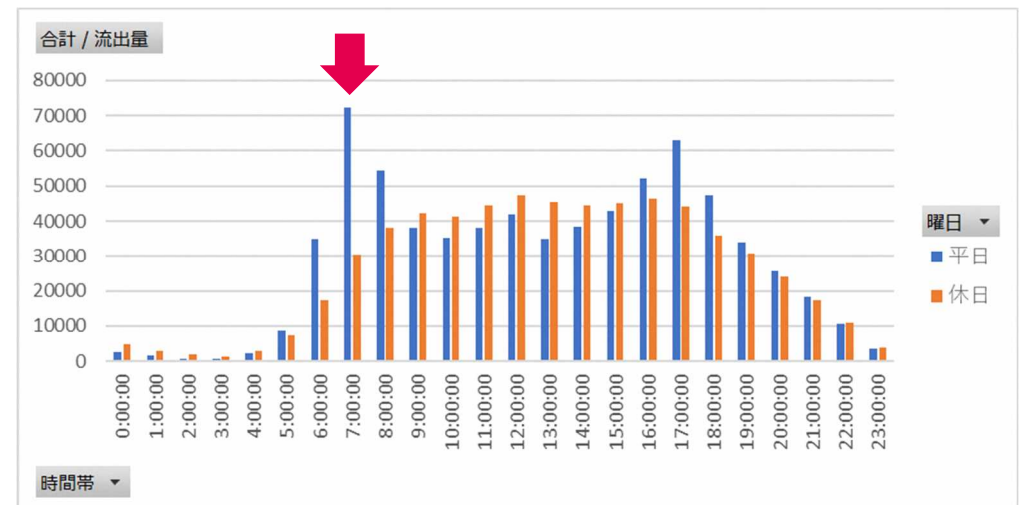
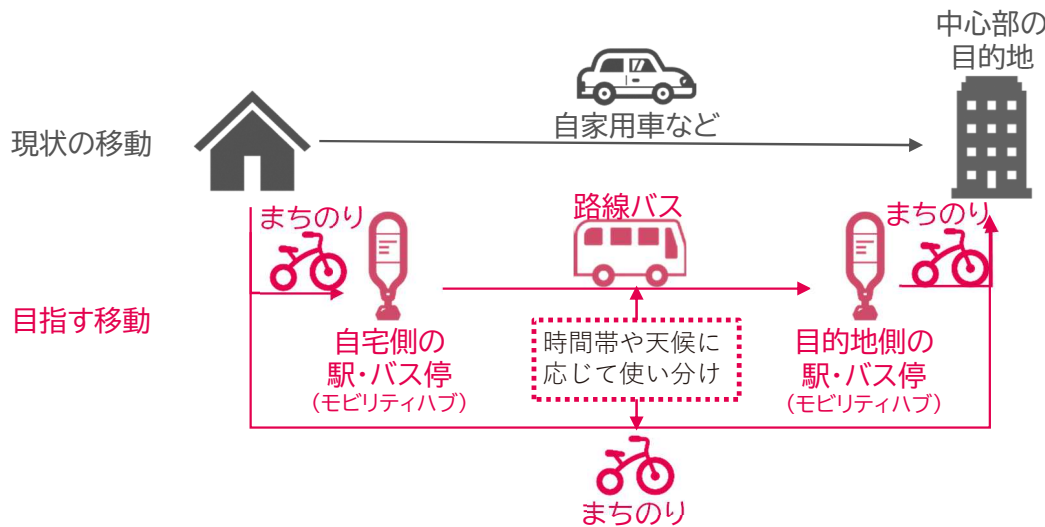


交通・人流データ等を活用した 現況分析の結果について

まちのりポート設置候補地域の検討 候補地域検討のための可視化設計

- まちのりの新規ポート設置候補地域を検討する。
- 現状、公共交通の利用が進んでいない地域にまちのりを設置し、モビリティハブ※とも効果的に組み合わせることで、自家用車からまちのりや路線バスへの転換が進み、公共交通の利用が促進されると想定する。
※駅、バス停、パーク・アンド・ライド駐車場・駐輪場等により構成される交通結節点。現在、金沢市が計画を構築中。
- まちのりの利用シナリオとしては、自宅近隣のポートから近隣のバス停(モビリティハブ)まで、まちのりを利用し路線バスに乗り継ぐ場合や、自宅近隣のポートからまちなかへ直接まちのりで向かう場合を考える。
- 候補地域は、路線バスが運行しているものの利用率が低い地域で、その中でも特に人の移動(人流)が多い地域を対象とする。
- 確認する時間帯は、最も人流の流出量が多くなる平日の朝7時台を対象とする。

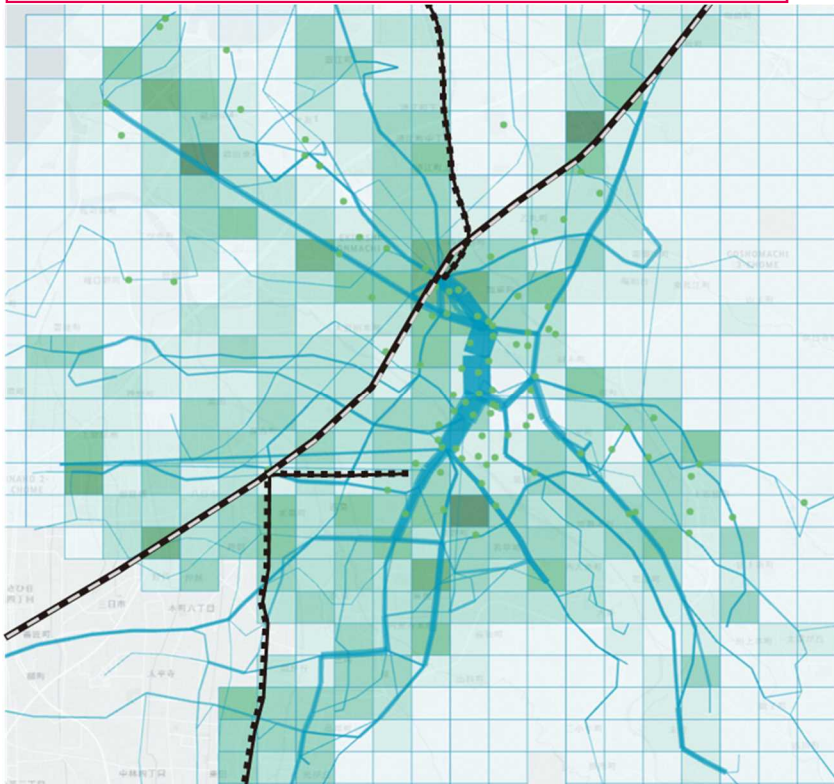


人流データはモバイル空間統計®を活用。「モバイル空間統計」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

まちのりレポート設置候補地域の検討 候補地域の絞り込み(平日朝7時台の流出量)

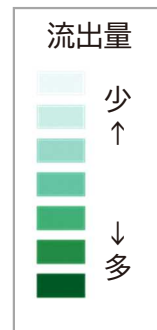
まちのりレポート設置候補地域として、人の移動(人流)が多く、かつ、路線バスが運行している地域を絞り込む
(対象:平日の朝7時台)

- 対象期間:2023年6月
- 流出量: ≤ 550 ※
- 曜日:平日
- 時間帯:朝7時台



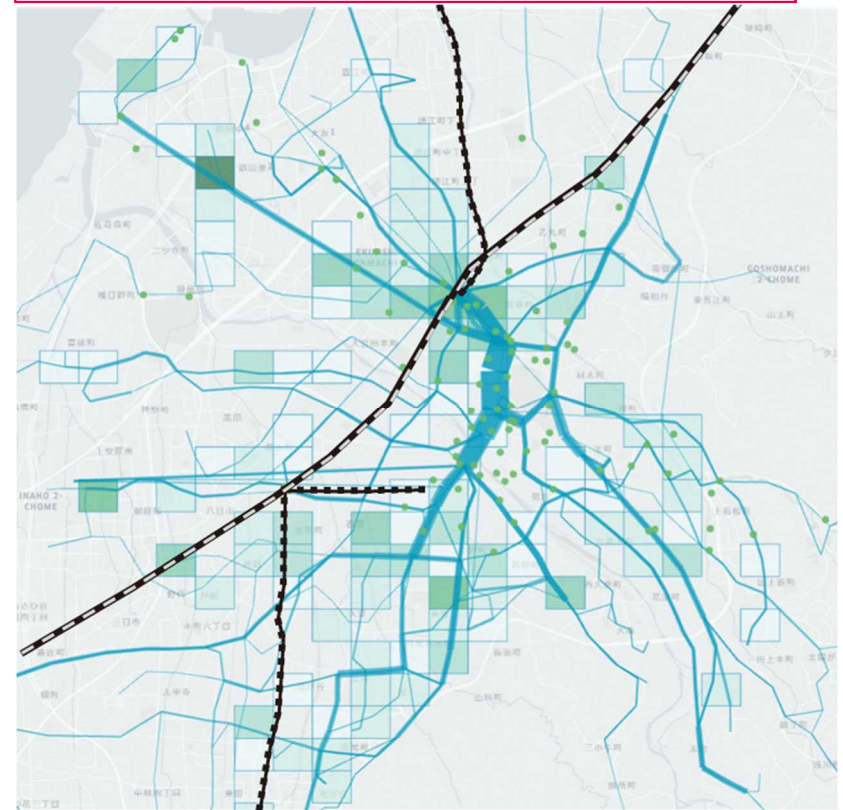
候補を絞り込み

- 絞り込みの条件
- 人の移動が多い
(流出量: ≥ 210)
 - 路線バスとの
乗り継ぎが可能
(出発便数: ≥ 1)



● まちのりレポート

- 対象期間:2023年6月
- 流出量: ≥ 210 、 ≤ 550 ※
- 曜日:平日
- 出発便数: ≥ 1
- 時間帯:朝7時台

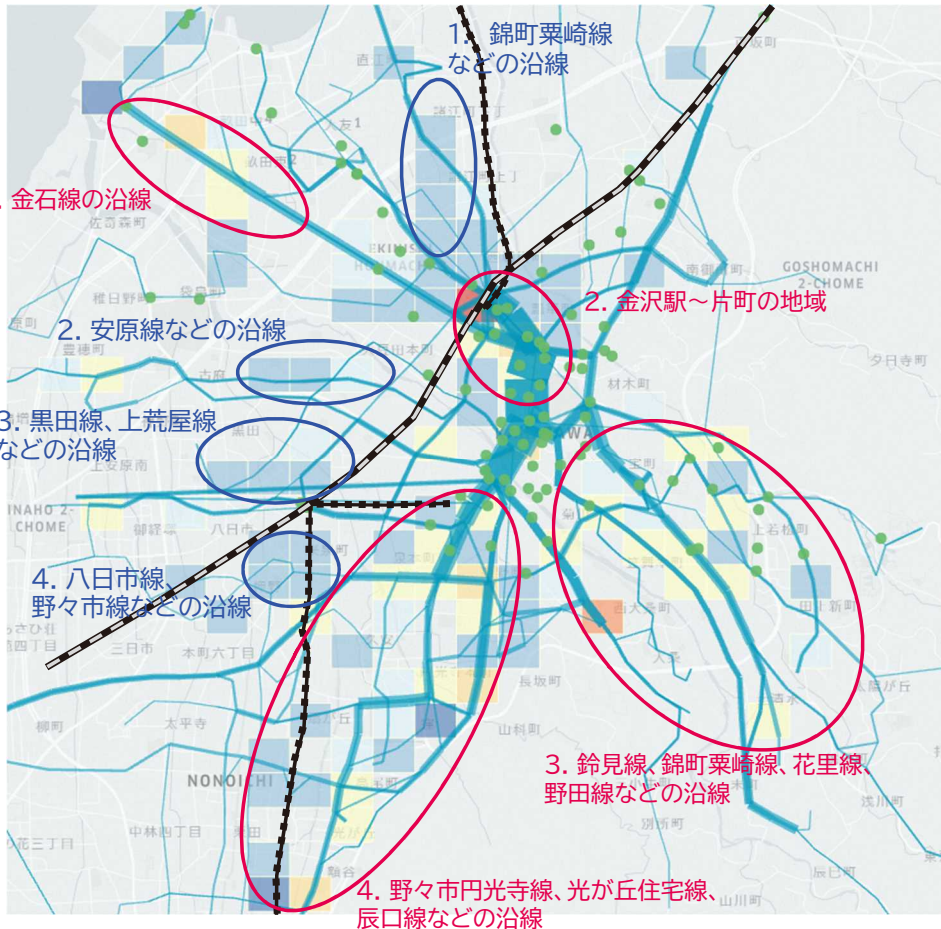


※色の濃淡を出すために当該時間帯の流出量の最大値を上限値として設定

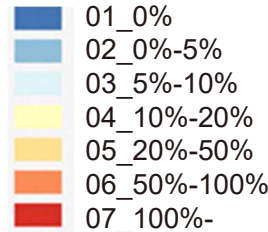
人流データはモバイル空間統計®を活用。「モバイル空間統計」は株式会社NTTドコモの登録商標です。

まちのりレポート設置候補地域の検討 平日7時台の路線バス利用率とまちのりレポート設置候補地域

まちのりのレポート設置候補としては、路線バス集中地域(金沢駅～片町)の西部、北部が挙げられる。
その中でも、「安原線などの沿線」は、路線バスとまちのりの相乗効果により公共交通の利用促進が見込まれる。



路線バス利用率(出発区分)
(利用者数/流出量+通過量)



● まちのりレポート

路線図は、平日7時台の
区間を運行する便数を
線の太さで表現(便数は
路線を統合して算出)

○ 人の移動が多く
路線バス利用率
の高い地域

○ 人の移動が多く
路線バス利用率
の低い地域

- 対象期間: 2023年6月
- 曜日: 平日
- 時間帯: 朝7時台
- 流出量: ≥ 210
- 出発便数: ≥ 1

人の移動が多いもののバスの利用率が低い地域で、
まちのりレポートが無い地域は以下の通り。

- 錦町栗崎線などの沿線
- 安原線などの沿線
- 黒田線、上荒屋線などの沿線
- 八日市線、野々市線などの沿線

路線バス集中地域(金沢駅～片町)の西部、北部に多く見られる。
(ただし、1. 3. 4. の地域は、バスの利用率は低いものの、近隣に
鉄道駅があり、バスではなく鉄道が利用されている可能性がある。
※データがないため検証不可)
「2. 安原線などの沿線」は、バスが走っているものの利用率が高
くなく鉄道駅も近くにないため、公共交通以外の移動手段が多く
選ばれていると想定でき、路線バスとまちのりの相乗効果により
公共交通の利用促進が見込める。

【参考】人の移動が多くバスの利用率が高い地域は以下の通り。

- 金石線などの沿線
- 金沢駅～片町の地域
- 鈴見線、錦町栗崎線、花里線、野田線などの沿線
- 野々市円光寺線、光が丘住宅線、辰口線などの沿線

路線バスの運行本数が多い(路線の線が太い)地域に多く見られ
る。移動需要に対し交通供給がマッチし利用率が高くなってい
ると想定できる。

路線バスの利用率は路線バスの乗降者データと人流データを用いて作成。
人流データはモバイル空間統計®を活用。「モバイル空間統計」は株式会社NTTドコモの登録商標です。